

栢田 和美 議員



(一問一答方式)

- ①子どもへの新型コロナワクチン接種
- ②地域防災への取り組み
- ③市民サービスの向上



子どもへの新型コロナワクチン接種について

問 5歳から11歳のワクチン接種について、どのように進めるのか。

答 本市では、3月19日から接種を開始することとし、市内の小児科医をはじめ、医師会等との関係機関と準備を進めています。

接種方法は、ワクチン1瓶から10人分を採取する必要があるため集団接種で行いますが、集団接種になじまない子は、個別接種での対応について調整を行っています。接種券は、まず10歳と11歳の接種券を発送し、予約の埋まり具合やワクチンの供給量を見ながら、年齢の高い順から順次発送します。基礎疾患を持つ子は、保護者からの申出に基づき、年齢を問わず、接種を希望する方へ随時発送します。

小児へのワクチン接種は、基礎疾患を持つ子の重症化予防効果や健康な子の発症予防効果など、新型コロナウイルス感染症から身を守るための高い有効性が認められている一方で、副反応に対する懸念や不安を拭い切れない部分があることも認識しています。

そのため、保護者のご本人に十分理解を得た上で接種いただけるよう、国が作成したリーフレットを接種券と同封して送るなど、ワクチン接種の正しい情報の提供に努める考えです。



地域防災への取り組みについて

問 視覚、聴覚障がい者への配慮ができる避難所の環境整備はできているのか。

答 災害時の避難所という特殊な環境下で、様々な情報収集、発信が困難な方への配慮は非常に重要と認識しています。

一方で、避難所を指定するときは、市民生活に身近な場所で、収容力と高い安全性が確保できるような公共施設に着目し選定しているため、視覚、聴覚障がい者へのハード的な面の環境整備は、あまり対応できていないのが現状です。

しかし、避難所での要配慮者対策は、指定避難所運営管理マニュアルの中でもニーズの把握や誘導ロープの設置などにも触れていて、避難所で従事する職員や自主防災組織は適切な対応を心がけています。視覚障がい者には、ゆっくり、はっきり話す、聴覚障がい者には、筆談や空書き等で文字にする、身振りを交えて話すといった対応も有効と考えます。

これらの対応方法を今後避難所で従事する職員や自主防災組織に周知し、引き続き安心して避難できる環境づくりに取り組みたいと考えています。

市民サービスの向上について

問 市民の利便性向上と行政の効率化のため、住民票や印鑑証明証などの申請時に、申請書を書かなくても窓口で身分証明書を示し、職員の聞き取り等で必要な書類が交付されるという窓口サービスを導入する考えはないか。

答 高齢者や障がい者など、手書きが困難な方に対しては、これまでも職員の聞き取りによる申請書への代筆など、来庁された方々に寄り添ったサービスの提供に努めています。今後、DXの推進によって、マイナンバーカードを活用した本人確認、申請書の作成、証明書発行までを行う「書かせない窓口」を実現することで、市民の利便性向上や待ち時間の短縮を図り、より一層の市民サービス向上につなげたい考えです。